

科目名		必修・選択	単位数	類型
論理国語		必修	2	理型
教科書 副教材等	論理国語（数研出版） 語彙力をつける入試漢字 2600（筑摩書房）			

1 学習目標

それまでの学習内容を発展させ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。それとともに、近・現代の文学や価値観に対する理解を深められるようにする。
- (2) 論理的に考える力を身に付けたり、文章構造や展開方法を理解したりすることを通し、他者と関わり伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習概要

実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的に考える力を伸ばしていく科目です。創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、高めたりすることを目指しています。近現代の論理的な文章や現代社会で必要とされる実用的な文章を読みながら、表現する力を高めます。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、そして発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に授業に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読・意味調べ等をするのとならないのでは、理解に大きな差が生まれます。また、語彙力と読解力を強化するためには、日常的に活字に触れることが大切です。画像や動画といった視覚刺激に慣れすぎると、思考や発想が鈍くなります。ぜひ日々の読書を日課としてください。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能(①)」、「思考力・判断力・表現力(②)」、「学びに向かう人間性(③)」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査(中間・期末考査、学力テスト)……………①、②
- ・小テスト……………①、③
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能(①)	思考力・判断力・表現力(②)	学びに向かう人間性(③)
評価基準	生涯にわたる現実社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使用しようとしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高め、思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめりごと）	考查等
一 学 期	【文化の認識】 ・「いき」の美学（尼ヶ崎彬）	・「表」と「裏」の二重構造によって想像力で生み出される美の魅力を伝える筆者の主張を読み取る。	中間 考 査 期 末 考 査
	【社会の枠組み】 ・「である」と「すること」 （丸山真男）	・豊富な具体例を通して、「である」「すること」という二つの対比的な視点から社会を分析するとともに、段落ごとの要旨や段落相互の関連を考えさせながら、筆者の問題意識や論の構成をつかむ。	
	【情報と知性】 ・人工知能はなぜ椅子に座れないのか （松田雄馬）	・現在活発に議論されている人工知能と人間のあり方について、専門性の高い研究者の考察に触れながら、豊富で身近な具体例をもとに生徒自身の問題として考える。	
二 学 期	【環境と人間】 ・意志と選択（國分功一郎）	・抽象的な思考の道筋をたどるうえで、言い換えの表現を手がかりにすることや、段落どうしの関係を的確に把握することの必要性を学ぶ。	学力 テ ス ト 中 間 考 査 期 末 考 査
	・環境と心の問題（河野哲也）	・各段落の主旨と段落どうしのつながりを押さえたうえで、筆者の近代科学に対する批判的主張を理解する。	
	【思索の深化】 ・顔の所有（鳶田清一） ・無常ということ（小林秀雄）	・これまでに授業で学んだ読解方法を徹底し、段落ごとのキーセンテンスを見出しつつ論の展開を押さえ、筆者が一番言いたいことは結局何なのかをとらえる。また、キーワードは何かマークしつつ、その関係に留意しながら、論の展開を丁寧にたどる。 ・一つ一つの表現を丁寧にたどりながら、筆者独特の表現や論の展開について学ぶ。その際、筆者が「美」「歴史」「無常」などの語に込めている独自の意味を、それらの語の一般的な意味と比較しながら考える。	
三 学 期	【物語と表現】 ・本歌取り（永田知宏）	・新たに生み出される表現・作品が、すでに存在する表現・作品を利用しながら成立していることに気づかせ、それを文章にまとめる過程を経験させるとともに、表現文化の歴史的な蓄積が持つ創造性を理解する。	